

令和4年度第2回岡崎市交通政策会議 会議録

1 開催及び閉会に関する事項

令和4年7月25日(月)14時00分～16時00分

2 開催場所

岡崎市役所西庁舎7階701号室

3 出席者及び欠席者の氏名

(1) 出席者(20名)

伊豆原 浩二	委員	(まちづくりの達人ネットワーク 理事長)
松本 幸正	委員	(名城大学 教授)
花村 元気	委員	(名古屋鉄道(株) 地域活性化推進本部 地域連携部 交通サービス担当 課長)
寺澤 秀樹	委員	(愛知環状鉄道(株) 運輸部 次長)
大野 淳	委員	(名鉄バス(株) 運輸本部 主席 交通企画官)
玉置 文博	委員	(名鉄東部交通(株) 取締役 路線バス事業部長)
浅岡 林平	委員	(愛知県タクシー協会岡崎支部 支部長(岡陸タクシー))
小林 裕之	委員	((公社)愛知県バス協会 専務理事) ※事務局長 徳田 裕二 代理出席
中村 彰宏	委員	(愛知県交通運輸産業労働組合協議会 幹事)
前山 敏昭	委員	(岡崎商工会議所 交通部会 会長)
長坂 秀志	委員	(岡崎市総代会連絡協議会 会長)
鷺山 幸男	委員	(岡崎市老人クラブ連合会 会長)
加賀 時男	委員	(岡崎市障がい者福祉団体連合会 理事長)
萩原 幸二	委員	(岡崎市六ツ美商工会 会長) ※小林 昭彦 事務局長 代理出席
鈴木 勝彦	委員	(額田地域生活交通協議会)
勝山 祐樹	委員	(国土交通省 中部運輸局 交通政策部 交通企画課長)
山内 三奈	委員	(国土交通省 中部運輸局 愛知運輸支局首席運輸企画専門官) ※本田 慎一郎 首席運輸企画専門官 代理出席
大林 益英	委員	(愛知県 都市・交通局交通対策課 担当課長) ※江崎 嘉彦 課長補佐 代理出席
稲吉 昌志	委員	(愛知県警察 岡崎警察署 交通課長) ※園生 賢一 課長代理 代理出席
山本 公德	委員	(岡崎市 副市長)

(2) 欠席者（1名）

増岡 浩仁 委員 （愛知県 西三河建設事務所 維持管理課長）

4 関係議題審議のため出席した事業者の代表者等の氏名

竹中 崇晶 氏 （名鉄岡崎タクシー(株)代表取締役社長）

5 説明等のため出席した事務局職員の職氏名

手嶋 俊明（総合政策部長）、木下 政樹（地域創生課長）、
細野 雅人（主任主査）、川内 良祐（主査）、
徳原 誉人（主事）、安藤 星哉（主事）

6 傍聴者、随行者等

9名

7 議題

(1) チョイソコおかざきの運行計画（案）について

資料1に基づき事務局より説明。

名鉄岡崎タクシー(株)、愛知運輸支局より報告事項
運行計画（案）については承認された。

<以下、各委員の意見等>

委員： 今後のスケジュールで、実証運行を2023年9月までとしているが、考えがあるのか。

事務局： 今回、会員条件の変更という形で六ツ美中部学区に定期的に来街される方にチョイソコおかざき（以下、チョイソコ）がどれぐらい需要があるのか、需要と供給のバランスを見る。また、会員登録者数も今後チョイソコが必要になるかもしれない人を考慮するとともに、需給のバランスを見ながら2023年3月まで実証運行し、その内容を2023年4月以降に反映させたものを9月まで実証運行させていただきたいと考えている。

委員： 定期的に来街されるということは、六ツ美中部学区に立地している企業やお店を対象にメッセージを発信していくということで良いか。町民の方はチョイソコを周知しているからよいが、企業などへの周知は工夫して行ってほしい。

事務局： 協賛企業としてご協力いただいている企業なので、お店などに来られる方にもチョイソコを利用していただけるように、周知を行っていく。

委員： 10月1日から会員条件の対象緩和ということで、地域外の方が会員になりたいという希望を出されると思う。10月1日に会員登録をしてもすぐに乗れるようにならず、

タイムラグが発生すると思うが、タイムラグを考慮して事前に広報等されるのか。

事務局： 広報等は工夫して事前に行っていく。

委員： 蒸し返すようで申し訳ないが、名鉄岡崎タクシー株式会社から謝罪があったが、事業主体側のコメントは無いのか。今後事故を起こしたときは、運行事業者が必ず頭を下げるだけという認識で良いか。

事務局： 事業主体である岡崎市からも今後、説明をさせていただく。

委員： 乗合率が1便あたり、1.27人と低く目標数値と大きく乖離している。今後こういった事業の度に赤字が増えていってしまうと思うが、どう考えている。

事務局： 乗合率は皆さんに使っていただきたいという思いで今回出させていただいた。利用されればされるほど赤字が増えていってしまうのではと心配されているかと思うが、良くも悪くも運行経費は一定である。ただ、利用者数はイベント等で多い時は、1便当たり8人の乗合が発生している。より多くの方に利用していただけるように周知は市、地域及び株式会社アイシンが協力して取り組んでいく。

委員： 乗合率自体は他の乗合タクシーと遜色ないので良い。ただ、コロナもあり乗合を避けざるを得ない状況なので今行う必要はないが、キャンセル率（予約不成立率）をみると良い。キャンセル率が高い場合はバッファ時間を少し多く取っていただいて、乗合を増やす方法をコロナが落ち着いたときに考えると良い。

委員： 対策を十分にしておける検証はトライしてみると良い。トライすることは非常に大切なので、実証運行の期間内に、今月は〇〇トライ月間のように各月ごとにトライをして欲しい。トライをした結果、良ければ継続し、悪ければトライ取りやめをし、その結果が住民に伝わっていくと良い。

委員： 実施イベントのチョイソコ利用割合はどれくらいか。また、イベントにはチョイソコだけを利用して行ける場所がないのもある。例えば、大樹寺散策など。東部交通さんに乗り継ぎ実績があまりないという話をきいたので、こうしたイベントで公共交通の乗り継ぎをするきっかけになると良い。

事務局： 各イベント、数名チョイソコの利用者がいた。岡崎甲羅本店と共同して行ったイベントでは、チョイソコ等を活用し、六ツ美市民センターに集合した後、岡崎甲羅本店のマイクロバスを利用して大樹寺及び岡崎甲羅本店に向かった。

委員： 資料にイベントごとのチョイソコ利用者数をまとめてもらうと良い。また、せっかくチョイソコ利用者がイベントに参加しているので、チョイソコ利用者の声があると改善点に繋がっていく。イベントを行うだけでなく、チョイソコ利用者の声まで聞いて欲しい。

委員： 6月限定で並行移動ルールの緩和をされ、18件の並行移動が確認されたと報告を受けたが、市としては18件は多いと感じるか、少ないと感じるか意見を聞きたい。

事務局： 18件が多いか少ないかには答えるのが難しい。ただ、今まで並行移動ができない時に家族に送迎してもらっていた方のチョイソコへの転換が、8件あった。今後この方

達が、こういった移動をしているのか調査をさせていただいて、次の会議で報告をさせてもらいたい。

委員： 並行移動ルールはデリケートな部分も少なからずあると思うが、一方で利用者数の増加につながる起爆剤にもなる。検証、整理が難しいと思うがお願いしたい。

委員： 会員条件の緩和により来街者向けにも拡大するが、その方々に対してもデータを取っていただきたい。例えば、どこでチョイソコを知ったか、どこからどこへ利用するか、運賃が安いと思ったかなどデータをまとめていただきたい。

(2) 矢作地域の地域内交通運行計画（素案）について

資料2に基づき事務局より説明。

<以下、各委員の意見等>

委員： 市の精査で他学区と違う形の新たなデマンド方式を採用することに対して、市はポジティブに受け止めているのか。市内で複数のデマンド方式が混在することは、不都合が起きる可能性があると感じたので説明をしていただきたい。また「既存交通事業者に配慮」とあるが、例えば坂戸線は2本/日と少ない。バス路線があるから並行移動不可は分かるが、バスの運行本数が少ない場所については、移動ルールの考え方に現実的な目線があっても良いのではないか。

事務局： 矢作地域の検討協議会にて、デマンド方式の検討時の条件として既存の名鉄バス路線の年間補助金額の範囲内で検討をお願いしており、システムを使わずタクシーを活用する方式で試していきたい。並行移動のレベル間については、どのような影響が出るかは実証実験の中で検証し、バスから人を奪うのではなく、車から移動方法を変えてもらい、移動の総量が増えるようにしたい。

委員： 質問に対する回答ではなかった。要は、2本/日のバスだけど並行路線だからといって移動不可にしてしまうと、実際にはデマンド交通を使えないのではということである。例えば、実証運行中に既存ダイヤの±30分は並行移動不可だが、それ以外の時間は並行移動ありにしてはどうか。地図上では運行してるように書かれているが、時間帯で見ると全く運行していない路線もある。時間帯で見ると全く運行していない時間について検討をしてみると、利用者目線に近づく。その上で車から公共交通に移行する流れを作る考え方が大事。

委員： 検討方針の既存名鉄バス路線の活用+αデマンド方式の導入は考え方として非常によい。まずは既存名鉄バス路線を利用してもらって、足りない部分を補っていくのは正しいと思うが、提案の中では、既存名鉄バス路線の活用という部分が見えてこない。活用についてはどう考えているか。

事務局： まずは名鉄バスに乗っていただくという形で、既存の名鉄バス路線を1本/時間に再編をした。さらに、名鉄バスのバス停にデマンドのバス停を置くことを検討してお

り、乗り継ぎという形で活用をしていく。

委員： 名鉄バスのバス停にデマンドのバス停を置くことは是非実現してほしい。願わくば乗り継ぐごとにインセンティブが働くような施策を実証実験中に検討してほしい。具体的には、運賃の割引やポイント制の導入などが考えられる。

委員： MaaSを念頭に入れていると説明があったが、どんなMaaSか。MaaSは種類が多いので今の具体的なイメージについて市、名古屋鉄道、地域等と検討する必要がある。検討することで、既存交通の仕組みのどこを変えていけば良いか、活用していけば良いか意見がでてくる。また、なぜ地域ごとに違うデマンドの仕組みになるのかということも良いデマンドの仕組みを作るため、良い町を作るためということが分かるように住民に説明できないといけない。

委員： 矢作地区についてはデマンド交通に向いているのではと期待をしている。6ページの既存交通への配慮について確認したい。また、六ツ美、矢作、額田と交通をしている中で、運賃が矢作でエリア内移動300円、隣接するエリアへの移動600円が適当な運賃となった場合六ツ美など各地区に波及するのか。

事務局： 既存交通事業者への配慮としては、バスとタクシーの中間としての移動手段になるので、バスより高くタクシーより安い運賃設定をするなど配慮をしている。六ツ美に運賃設定が波及するのかという点は、エリアの広さの関係もあり、地域ごとに運賃を考えているため、現時点では各地区に波及させることは考えていない。

委員： 停留所の位置はこれから詳細が決まっていくと思うが、エリアとバス停の位置が微妙な停留所もあり分かりづらい。色や形を変えてもらうことで、地区ごとに停留所の判別ができるようして、利用者にとって分かりやすい図にしてもらいたい。

事務局： 利用者目線で分かりやすい図にするように工夫する。エリアについては、地域の方が分かりやすいように小学校区でエリアを分けることで話をしている。

委員： 仕組みが難しいかもしれないが、地域の検討協議会で話し合った結果が素案という形でまとまっている。次回の交通政策会議で確定させるため、気づいた点があれば、今後も意見を事務局へ連絡して欲しい。

(3) 下山地区線の運行計画（案）について

資料 3 に基づき事務局より説明。

運行計画（案）については承認された。

<以下、各委員の意見等>

委員： 特認校制度とはどんな制度か。

事務局： 岡崎市の市内の小学校に通う児童が、中山間の小学校へ通えるようにする制度。今回の運行計画は、市内の小学校から下山小学校へ通ってもらえるようにと地域の方から要望があったもの。

委員： 特認校制度を使って下山小学校に来ることが確定をしているのか、可能性がある状況か。また、市としては通学手段は基本的に何を想定しているのか。

事務局： 来る可能性がある状況。市としては、基本通学手段は両親が送ることを想定している。ただ、通学手段の1つとして準備をしておきたいという地域からの要望が今回の運行計画。

委員： 教育委員会としては、通学手段に公共交通を使用してはいけないということはないか。

事務局： 使用してはいけないということは聞いていない。

委員： 行きについては分かったが、帰りの便が心配。本当に使って欲しいなら帰りも考えるべき。今は想定段階なので、この運行計画でよいと思うが、地域の方と検討は進めておくとよい。

委員： 帰りの便についても地域の方と相談はしているのか。

事務局： 相談をしていない。小学校とも話し合う機会があるので、協議をしていく。

委員： 今の小学生への対応は今回の変更案+αがあることで、承認を得ればよいか。

事務局： 今回の運行計画変更は高校生の通学利便性向上が1番の趣旨である。10月1日からの運行計画については変更案のとおりで承認を得たい。特認校制度のためにダイヤを変更する必要がある場合は、10月以降の政策会議で協議に諮りたい。

委員： 1便目、2便目を市民病院・洞町を經由しないということは、特認校制度を意識しないと説明が難しいと思う。高校生が少しでも早く学校に行けるようにしたという理由であれば説明はつくが。また、観光協会がクアオルトを下山地域で企画して、このバスを利用してほしいと案内をしていた。実際にバスの利用があったかは分からないが、イベント等を考えると現状のダイヤが良いのではと考えてしまう。単発の事情だけ考えるのではなく、複合してダイヤを考えてほしい。

委員： また工夫して地元の皆さんとダイヤを検討してほしい。

8 その他

資料4に基づき事務局より説明。

<以下、各委員の意見等>

委員： 矢作、六ツ美を先行して行っているため、地元の方々に進め方の意見を聞き、取り入れて欲しい。分かりやすいものが作れるといい。

高齢者パスのチラシについて市より説明。

委員： 高齢者パスについて、バスのアナウンスがあった。非常に良いと思った。

委員： 岡崎市が補助をしている期間内は、コロナ禍においても購入が多くある。購入は利用者数に寄与しており、補助期間に購入をしていただいた新規のお客さんがそのまま利用を続けているのか、購入者が右肩上がりで増えている。名鉄バスとしても明るい材料になっている。岡崎市は市内全域に路線が網羅されているため、岡崎市での高齢者パス購入が増えている。次回会議で高齢者パスの補助に関する情報について報告する。

9 連絡事項

次回会議（令和4年度第3回）予定について連絡をした。

— 会 議 終 了 —